

平成 30 年度 事業報告

平成 30 年度事業概況

平成 30 年度の国内経済は穏やかな回復基調が続き、企業収益や雇用・所得環境の改善が進みました。しかしながら、英国のEU離脱問題、米中貿易摩擦の激化などによる海外経済の不確実性に加え、国内では相次ぐ自然災害による影響もあり、景気の先行きは不透明となりました。印刷産業においては情報メディアのデジタルシフトなどにより、印刷需要は減少傾向が続き、用紙の値上げや品不足、物流費の上昇など経営環境は厳しいものでした。そのような中、IoT、AI、ビッグデータなどの新しい技術が創出する社会変化が目に見えるものとなりました。また、地球環境においては海洋プラスチックごみの問題がクローズアップされるなど印刷業界にもさらなる対応が求められました。このような経営環境は印刷産業にとって、対応に相応の努力が課せられますが、大きなチャンスと捉えて活動を進めました。

日本印刷産業連合会は経営方針である「グランドデザイン」をベースに SDGs（持続可能な開発目標）から導き出される印刷産業が取り組むべき社会的課題の解決に繋がる事業テーマを設定いたしました。「SDGs 検討プロジェクト」を設置し、次年度に向けた準備・活動を推進し、「9 月印刷の月」記念式典では講演会「SDGs への対応～大変革の時代、21 世紀型ビジネスモデルの構築に役立たせる～」を開催し、印刷産業における SDGs への取り組みを本格化させる契機となるよう、その重要性を広くアピールいたしました。

グローバル対応としては、9 年ぶりに東京で FAPGA アジア印刷会議を開催し、IGAS2018 に初めての試みとして、日本の印刷産業を紹介する Japan Printing Exhibition ブースを出展し国内外の多くのお客様が来場されました。

さらに、「グランドデザイン」に定めた「新たな価値創出に向けた活動」「適正で誠実な企業行動の推進」「地球環境への高い配慮」「社会に向けた情報受発信の強化」の四つの方針を基本的な指針として、印刷産業が社会変化に対応し顧客企業そして社会に貢献することに繋がる活動に重点を置き平成 30 年度の事業を展開いたしました。

I. 事業活動

I 常設委員会活動 / 顕彰委員会

業界基盤の整備および体質強化を図るための常設委員会活動は、本年も5委員会を編成した。さらにはSDGsの目標と各委員会の事業を関連づけ活動するために「SDGs検討プロジェクト」を設置した。各委員会では、それぞれの事業計画に基づいて様々な活動を展開した。顕彰委員会では、印刷産業の活性化につながる顕彰制度を目指した活動を継続した。

1 ステアリング・コミッティ（運営委員会）

【1】概要

「グランドデザイン」を事業方針として、会員10団体の会長および常設委員会委員長らをメンバーに、各委員会および認定事業の活動における諸課題の検討を行った。

委員会での主な議案(検討事項)としては、通常議案となる「事業報告・決算報告」「事業計画・収支予算」「9月印刷の月・新年交歓会等の主要行事」「日印産連表彰・印刷環境優良工場表彰・GP環境大賞」などに加えて、日印産連が対応すべき新たな事案として、「日本製紙連合への対応(用紙値上げ反対・品薄問題)」の他、「印刷業における外国人材の受け入れ方針」、「海洋プラスチックごみ問題の解決に向けた取組」などが検討された。特に「用紙に関する対応」については、値上げの発表を受け日印産連として10団体の連名で日本製紙連合会に反対声明文を提出。同時に用紙の品不足について経済産業省に状況報告並びに改善要請を行った。さらに全印工連とともに日本経済新聞社の取材を受け、安定供給を強く訴え、その記事が2回に渡って掲載された。また「新たな外国人材の受け入れ」については経済産業省へ会議参加を依頼し、今後の対応についてディスカッションを計2回行った。

報告事項としては、「知財公開フォーラム2018」「FAPGA(アジア印刷会議)2018年東京開催」「女性活躍推進部会 拡大版「WAIGAYA」の開催」「じゃぱにうむ 2019 印刷産業の地方創生事業事例発表会」などが取り上げられ、具体的な活動内容について報告された。

行政への対応としては、経済産業省との案件では「ヒアリ生息地からの輸入品を扱う事業者への協力依頼」「夏季の省エネルギーの取組について」「改元に伴う情報システム改修等への対応について」「軽減税率導入に伴う説明会開催等の対応について」「2020年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動に関する要請について」などの対応を、厚生労働省との案件では「平成30年度最低賃金額の改定に関する周知・広報に実施等について」「長時間労働削減を始めとする働き方の見直しに向けた取組に関する要請者」や「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」などへの対応を、会員10団体事務局と連携して行った。内閣府とは「新規大学卒業予定者等の就職・採用活動開始時期について(要請)」などに対応した。

委員会名	開催回数	実施内容
ステアリング・コミッティ (運営委員会)	5回	*平成30年度 事業報告並びに決算報告 *2019年度 事業計画並びに予算収支 *日印産連表彰 / 印刷産業環境優良工場表彰 *GP環境大賞等表彰規程 *2018年9月印刷の月 / 2019年 新年交歓会 *2019年度 日印産連 主要行事日程
① 10団体専務理事連絡会	5回	

《本委員会開催日》

第1回	2018年 5月16日(水)	於：日本印刷産業連合会 会議室
第2回	2018年 8月 1日(水)	於：日本印刷産業連合会 会議室
第3回	2018年10月17日(水)	於：日本印刷産業連合会 会議室
第4回	2018年12月12日(水)	於：日本印刷産業連合会 会議室
第5回	2019年 3月13日(水)	於：日本印刷産業連合会 会議室

【2】委員名簿

ステアリング・コミッティ(運営委員会) (計15名)

(敬称略、◎は委員長)

連合会役職	所属団体		氏名	会社名
	団体名	役職		
◎副会長	印刷工業会	副会長	浅野 健	(株)金羊社
常任理事	印刷工業会	副会長	堆 誠一郎	宝印刷(株)
副会長	全印工連	会長	臼田 真人	(株)アドピア
常任理事	全印工連	副会長	作道 孝行	作道印刷(株)
常任理事	全印工連	副会長	細井 俊男	新日本印刷(株)
常任理事	全印工連	副会長	滝澤 光正	滝澤新聞印刷(株)
副会長	フォーム工連	会長	櫻井 醜	トッパン・フォームズ(株)
常任理事	ジャグラ	会長	中村 耀	NS印刷製本(株)
常任理事	全日本製本	会長	田中 真文	(株)田中紙工
常任理事	G C J	会長	田村 壽孝	(株)東京ニュース
常任理事	全日本シール	会長	田中 祐	山王テクノアーツ(株)
常任理事	全国グラビア	理事長	田口 薫	大日本パッケージ(株)
常任理事	スクリーン・デジタル	会長	吉見 正彦	マルワ工業(株)
常任理事	全日本光沢	会長	鶴田 和也	宏和樹脂工業(株)
価値創出委員会 委員長			(滝澤 光正)	
企業行動委員会 //			(堆 誠一郎)	
地球環境委員会 //			(田口 薫)	
広報委員会 //	印刷工業会	理事	岩岡 正哲	岩岡印刷工業(株)
顕彰委員会 //			(浅野 健)	

【3】主な実施内容

ステアリング・コミッティ (運営委員会) における「議案(検討事項)」および「報告事項」

*第3回・第5回の会議では、経産省の出席を得て、外国人材の受入れについて検討した。

□ 第1回

1. 平成29年度 事業報告並びに決算報告(案)の件
2. 平成30年度 日印産連表彰の推薦(案)の件
3. 2018 GP資機材環境大賞 実施要領(案)の件
4. 報告事項
 - (1) 第17回印刷産業環境優良工場表彰の応募/選考状況について
 - (2) 平成30年度4月/都道府県別会員企業数一覧

□ 第2回

*新メンバー(フォーム工連 櫻井会長 全日本製本 田中会長)のご紹介

1. 平成30年度 日印産連表彰の件
2. 第17回 印刷産業環境優良工場表彰の件
3. GP環境大賞等表彰規程(案)/同選考委員会規程(案) および委員会規程(関連箇所)改正の件
4. 2018 GP環境大賞等表彰の件

5. 2018年9月印刷の月（講演会・記念式典・懇親会）および来年度以降における総会懇親会の件

6. 報告事項

- (1) GPマークの普及状況について
- (2) 第45回 技能五輪国際大会 日本代表選手選考会の状況について
- (3) 知財公開フォーラム2018について
- (4) FAPGA（アジア印刷会議）2018年東京開催について
- (5) 書籍「印刷産業のための個人情報保護の手引き」および「構築支援ツール参考資料集」について

□ 第3回

1. 2018年9月印刷の月 開催結果の件
2. 2019年度 日印産連 主要行事日程(案)の件
3. 2019年 新年交歓会(案)の件
4. 第18回印刷産業環境優良工場表彰 実施の件
5. 報告事項
 - (1) 環境自主行動計画 目標値と2017年度実績について
 - (2) 2018年度「印刷人育成オープンセミナー」開催について
 - (3) VOC排出抑制セミナーについて
 - (4) 女性活躍推進部会 拡大版「WAIGAYA」の開催について
 - (5) 書籍「印刷産業のための個人情報保護の手引き」発刊について
 - (6) 地方創生SDGs 民間連携プラットフォームについて
 - (7) 2019年度 ステアリング・コミッティ 年間予定について
 - (8) 2019年度 専務理事連絡会 年間予定について
6. 印刷業における外国人材の受け入れ方針の件 《経産省 矢野課長補佐 ご出席》

□ 第4回

1. 日本製紙連合への対応（用紙値上げ反対・物流問題）の件
2. 海洋プラスチックごみ問題の解決に向けた取組の件
3. 選挙運動用ビラの受注状況・ナンバリング設備に関する調査の件
4. 平成30年度 日印産連主要行事日程（一部追加修正）の件
5. 報告事項
 - (1) じゃばにうむ2019 地方創生事業事例発表会開催のご案内について
 - (2) 第45回 技能五輪国際大会の日本代表選手（候補者）について
 - (3) 知財公開フォーラム2018の報告について
 - (4) GP認定制度の表彰式等およびエッセイ作文コンテストの結果について
 - (5) 第18回 環境優良工場表彰の応募要項について

□ 第5回

*金子会長挨拶

1. 2019年度 事業計画並びに収支予算（案）の件
2. 報告事項
 - (1) 用紙値上げと安定供給への対応について
 - (2) 女性活躍推進部会「WAIGAYA」の開催について
 - (3) 主催コンクールについて
 - (4) 海洋プラスチックごみ問題に関する日印産連の対応について
 - (5) 環境優良工場表彰について
 - (6) デジタルプレス推進協議会セミナー開催について
 - (7) 「じゃばにうむ2019印刷産業の地方創生事業事例発表会」について
3. 外国人材をめぐる政策動向について 《経産省 ご出席》

【1】概要

印刷産業の価値創造に資する情報交流・情報提供・発信・共有・教育・研修等を促進することを目標に活動した。

- ・地域連携情報交流サイト<じゃぱにうむ>を基盤とした地方創生支援事業として、また 2018 年 10 月の内閣府地方創生推進事務局が主幹する「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」への参画を契機とした取り組みとして、「じゃぱにうむ 2019 - 印刷産業の地方創生事業事例発表会 -」を開催し、印刷産業が取り組んだ地方創生・地域活性化の好事例の水平展開を行った。
- ・市場動向や最新技術動向の情報収集と情報発信
- ・知的財産権（著作権、地域ブランド戦略等）の調査研究、情報交流および啓蒙活動の推進
- ・印刷業界の事業継承に係る経営課題の検討、特に後継者育成のための啓蒙活動として「印刷人育成オープンセミナー」を引き続き実施した。また、技能五輪国際大会の日本代表選手選考と代表選手の強化訓練を実施し、若手印刷人の育成を図った。

委員会名	開催回数	実施内容
価値創出委員会	3回	<ul style="list-style-type: none"> * 価値創造に資する情報提供、事業ニーズ調査研究 * 地方創生支援事業の具体化検討等、企画提案活動推進 * 各部会活動報告、市場拡大に向けた固有技術調査研究、技能五輪国際大会に係る実施計画検討、事業承継における人材育成教育の検討
① 市場動向調査部会	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷関連市場調査分析と市場拡大に向けた提言 ・紙値上げに対する情報分析と10団体連携確認
② 知的財産部会	10回	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権問題の調査研究、周知啓発活動の実施
③ 技術部会	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・共通する話題の講演会、工場見学会の実施
■デジタルプレス推進協議会	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルプレス動向調査実施、報告会の開催
■印刷用語集改定委員会 ・グラビア分科会	2回 3回	<ul style="list-style-type: none"> ・新規用語登録時の役割と手順を決定 ・グラビア関連用語の検討と追加登録
■技能五輪		<ul style="list-style-type: none"> ・第45回技能五輪国際大会「印刷職種」日本代表選手選考会の実施と選手強化のための訓練支援
・技能五輪運営協議会	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・選考会の競技内容見直し
・技能五輪審査委員会	4回	<ul style="list-style-type: none"> ・選考会の審査方法・基準の見直し
・技能五輪強化委員会	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・選考会の運営 ・選手強化のための訓練支援
■価値創出WG	5回	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生事業事例発表会の企画検討、発表企業・事例内容確認、決定 ・印刷人育成セミナーの講義内容・講師の検討、決定

《本委員会開催日》

第1回	2018年	7月09日(月)	於：日本印刷産業連合会	会議室
第2回	2018年	12月10日(月)	於：日本印刷産業連合会	会議室
第3回	2019年	2月25日(月)	於：日本印刷産業連合会	会議室

【2】委員名簿

価値創出委員会（計14名）

（敬称略、◎は委員長、○は部会長）

連合会役職	所属団体		氏名	会社名
	団体名	役職名		
常任理事(新任)	印刷工業会	専務理事	藁科 忠	
◎常任理事	全印工連	副会長	滝澤 光正	滝澤新聞印刷(株)
理事	全印工連	常務理事	橋本 唱市	文唱堂印刷(株)
	フォーム工連	常任理事	石井 啓太	共同印刷(株)
	ジャグラ	専務理事	沖 敬三	勝美印刷(株)
(新任)	全日本製本		渡邊 博之	(株)博勝堂
	G C J	常務理事	中田 辰悟	(株)一真社
	全日本シール	副会長	清水 重行	(株)テクスチャー
(新任)	全国グラビア	専務理事	村田 英雄	
	スクリーン・デジタル	副会長	佐竹 博志	(株)アイ・エス・アイ
	全日本光沢	専務理事	大島 一夫	太陽樹脂工業(株)
○市場動向調査部会長(新任)	印刷工業会		佐藤 裕芳	(株)千代田グラビヤ
○知的財産部会長	印刷工業会		萩原 恒昭	凸版印刷(株)
○理事/技術部会長	印刷工業会	理事	服部 克彦	瀬味証券印刷(株)

【3】主な実施内容

(1) 「じゃぱにうむ2019 - 印刷産業の地方創生事業事例発表会 - 」

印刷産業が取り組む地方創生・地域活性化などに関わる事業の成功事例を集約し、その情報共有とそれによるビジネス機会の創出を狙い、全国各地の印刷会社等9社による事例発表会を開催した。

- 開催日時 : 2019年3月18日(月) 14:00~17:40 18:00~19:00 レセプション
- 会場 : 大日本印刷(株)五反田ビル1Fホール(東京都品川区西五反田3-5-20)
- 開催狙い : ①印刷産業における地方創生事業の情報共有と参入機会の検討
②地方創生SDGs官民連携プラットフォーム活用による地域連携事業推進
- 主催 : 日本印刷産業連合会価値創出委員会、同SDGs検討プロジェクト
- 後援 : 内閣府
- 概要 : ①挨拶: 価値創出委員会委員長 滝澤 光正氏
②基調講演: 内閣府 地方創生推進事務局 参事官 遠藤 健太郎氏
③事例発表: 全国の印刷会社等9社による事例発表(各社20分)
④講評: 東京理科大学大学院教授 生越 由美氏
- 聴講者数 : 138名

8) 発表企業・事業概要・活動エリア：



9) アンケート結果 : ・回収率 55.8%

- ・印刷会社、印刷産業関連団体 83.1%
- ・ビジネス機会創出に役立つ・参考になる 97.4%



開会挨拶 滝澤委員長



基調講演 内閣府 遠藤参事官



事例発表① (株)大川印刷 大川社長



事例発表⑤ (株)平山印刷 鈴木部長



事例発表⑦ 共同印刷(株)内田ディレクター



講評 東京理科大学大学院 生越教授

(2) 2018 年度印刷人育成オープンセミナー（日本プリンティングアカデミーとの共催）

- 1) 開催日時・会場：2018年11月06日(火) 9:00～12:30 於:日本プリンティングアカデミー
 2018年11月13日(火) 9:00～12:00 於:日本印刷産業連合会
 2018年11月20日(火) 9:00～12:30 於:日本印刷産業連合会

2) テーマ：『事業拡大に向けた経営戦略』

3) 主旨：

- ・多様な社会的ニーズの掘り起こしなど、次代に挑戦する印刷業界の新たな力（価値）を学び、事業拡大に向けた経営戦略の新たな展開を図る。
- ・自社の経営資源（リソース）を活用した経営戦略を立ち上げるための一助として、各自が応用展開できるように双方向の研究・考察を行う。
- ・参加者の多様な意見やアイデアを結集させ、印刷産業の新たな価値創出への手掛かりを獲得できることを目標にする。
- ・持続可能な開発目標 SDGs の実現に向けた印刷産業の社会的責任を理解する。
- ・デジタル化の進展とともに印刷産業の新たな価値創出と次代を担うための事業承継と経営戦略等の研究・考察を行い、経営幹部候補となるべき有望な人材の育成を行う。

4) 講義内容・講師：

日印産連職員の他に各部会、10 団体から選出された講師、及び関連業界から講師を招いて開催

第1日目 11月6日(火) 9:00～12:30		会場:日本プリンティングアカデミー
①	ソーシャルメディア・マーケティングの基本知識と活用法	日本プリンティングアカデミー 教務部 佐藤宏司氏
②	シール印刷とブランド戦略	山王テクノアーツ(株) 代表取締役社長 田中祐氏
③	印刷業務にかかわる知的財産権の概要と知財戦略	凸版印刷(株) 執行役員法務・知的財産本部長 萩原恒昭氏
④	世界の印刷業界の動向	日本印刷産業連合会 広報部長 石橋邦夫氏
第2日目 11月13日(火) 9:00～12:00		会場:日本印刷産業連合会
①	グリーンプリンティングと環境課題	日本印刷産業連合会 GP推進部長 滝栗正雄氏
②	個人情報保護とプライバシーマーク制度	日本印刷産業連合会 SR部長 上村護氏
③	デジタル印刷とPOD出版事業	(株)インプレスR&D 取締役 Next Publishingセンター長 福浦一広氏
第3日目 11月20日(火) 9:00～12:30		会場:日本印刷産業連合会
①	印刷会社が知っておくべきSDGsの概要と影響	凸版印刷(株)エコロジーセンター 部長 木下敏郎氏
②	印刷会社の地域おこし事例研究 福島産学連携モデル「ふくいろキラプロジェクト」	(株)山川印刷所 総合企画部長 菅野勇氣氏
③	ワークショップ:地域おこしと経営戦略	日本印刷産業連合会 市場調査部 大島渡氏

5) 受講生：42名

工業会10名、全印工連6名、フォーム工連5名、ジャグラ4名、全日本シール3名、スクリーン・デジタル5名、日本プリンティングアカデミー7名、取材2名

6) アンケート結果：

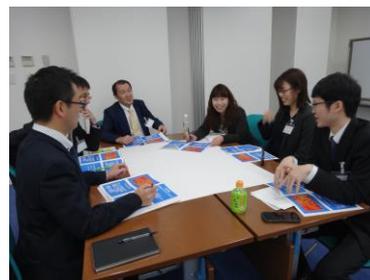
- Q1 研修講座の全体的な感想 「大変よかった」・「よかった」が3日間平均で89.6%
 Q2 また受講したいか 「是非受けたい」・「機会があれば」が3日間平均で83.7%
 Q3 また受講の場合、誰に 3日間平均で「自分が」が35.7%、「社員に」が64.3%



山王テクノアーツ(株) 田中社長の講義



(株)インプレス R&D 福浦取締役の講義



地域おこしに関わるディスカッション

(3) 市場動向調査部会

印刷産業に関するデータおよび関連資機材データの収集(経済産業省等行政当局発表資料・各種業界団体などの関連データ)ならびに分析を行う。

1)「印刷産業関連データ」の発行

- ・第216号(2018年5月31日)～第221号(2019年3月31日)隔月で計6号発行
- ・第220号では、従来より掲載していた厚生労働省発表の「毎月勤労統計調査」(賃金・労働時間・雇用)の掲載を見合わせた
- ・有償会員(会員企業10,286円、非会員企業20,571円)40ヶ所、無償会員40ヶ所に配送

2) 月次更新データの Web サイト掲載

- ・上記「印刷産業関連データ」の前半部分データ編の元となる各種データを更新
- ・2018年4月末日～2019年3月末日 計12回更新
- ・日印産連 Web 上に掲載、冊子有償会員限定で提供(冊子送付ラベルに記載した P/W で閲覧可能)
- ・上記データの概況のみ一般閲覧可能なページに掲載

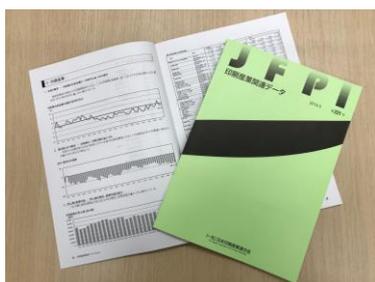
3)「マーケティング・データ・ブック」(MDB)の発行

- ・印刷業、関連資機材及び印刷業の得意先市場等の動向を、経済産業省「生産動態統計調査」、「工業統計表」、その他各種団体等が発表するデータを元に、年度推移をグラフ化して掲載
- ・年度に1回、年報として発行、平成30年度は2月28日に Vol.17 として発行
- ・「印刷産業関連データ」の有償会員・無償会員、及び MDB のみの購読者に配送

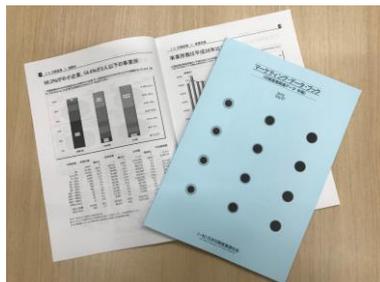
4)「動態調査」の実施

- ・従業員100人以下の印刷会社に対して3ヶ月毎の生産金額、及び各四半期末における景況感を調査
- ・調査結果をまとめ、日印産連 Web サイトに掲載し、調査に回答した企業限定で結果を提供(閲覧用 P/W をメールで配信)、他に、独立行政法人労働政策研究・研修機構が実施している BLM(ビジネス・レーダー・モニター)調査にデータ提供
- ・2018年10月～12月の調査では385社に調査票を送付、65社から回答

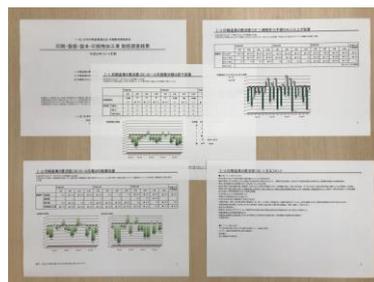
年度・調査期間	2017年度		2018年度	
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
調査対象企業数	392	388	385	385
回答企業数	66	72	60	65
回答率(%)	16.8%	18.6%	15.6%	16.9%



印刷産業関連データ



マーケティング・データ・ブック



動態調査

5) 用紙価格値上げに関わる印刷業界団体としての取り組みに関する検討

- ・用紙価格の値上げに対する日印産連のこれまでの対応についての報告
- ・各団体の対応状況の情報共有
- ・今後の対応方法についての日印産連と各団体の連携の確認

(4) 知的財産部会

タイムリーなテーマの抽出や業界としての課題の調査研究に取り組み、解決に向けた提案活動を進めている。知的財産権に関するトラブル・疑問や注意点に関する討議の成果を機関誌「JFPI REPORT」等へ掲載し印刷の日常業務に役立てている。また政府・行政省庁の知財関連意見募集へ積極的に対応。

1) 日印産連機関誌「JFPI REPORT」及び各団体機関誌による知的財産権問題の啓蒙活動

「こんなときどうする!?知的財産アドバイス」連載記事内容の検討、原稿制作

Vol.164 (2018年7月号) イラストに彩色する場合の注意点

Vol.165 (2018年10月号) パロディ化したデザインを制作する場合の注意点

Vol.166 (2019年1月号) パロディ化した商品名・ロゴ等を制作する場合の注意点

Vol.167 (2019年4月号) 著作権保護期間が著作者の死後70年に延長されたことでの注意点



Vol.164 (2018年7月号)



Vol.166 (2019年1月号)

2) 文化庁、特許庁等の政府関連の知的財産権動向、及び著作権関連動向の情報共有

- ・2018年12月20日 文化庁 著作物の保護期間の延長に関するQ&Aの掲載
- ・2018年12月28日 経産省 「不正競争防止法等の一部を改正する法律」の一部の施行のための関係政令が閣議決定

3) 政府、行政官庁への対応(パブリックコメントによる意見表明、提言、要請事項とりまとめ)

- ・2018年11月12日提出 「知財紛争処理システムの見直しの検討課題に対する提案」

4) 「知財公開フォーラム」の開催

- ・開催日時：2018年10月5日(金) 13:00~16:15

- ・会場：東京都中央区立日本橋公会堂

- ・構成：

開会挨拶 浅野健(日本印刷産業連合会副会長、(株)金羊社代表取締役会長)

特別講演 『個と群と律』 野老(とこ)朝雄氏(アーティスト)

第1部 講演と事例発表 『中小企業の知財戦略』

- ・講演 『中小企業経営に知財を活かすための戦略論』 鮫島 正洋氏(弁護士、弁理士)

- ・事例発表 『ユーザー、デザイナー、企業を結ぶ価値ある知財ビジネス』

西山 浩平氏(株式会社CUUSOO SYSTEM 代表取締役社長)

- ・事例発表 福島産学官連携モデル『ふくいろキラプロジェクト』

菅野 勇氣氏(株式会社山川印刷所総合企画部長)

第2部 『デジタル時代の知財戦略』講演とディスカッション

- ・講演 『ブランドって何だろう? - エルメスでの経験から -』

山田美樹氏(衆議院議員、自民党知的財産戦略調査会幹事)

- ・講演 『知的財産戦略ビジョン 知的財産推進計画2018』

中野岳史氏(内閣府知的財産戦略推進事務局参事官(総括担当))

- ・パネルディスカッション 『デジタル時代の知的財産』

野老朝雄氏、鮫島正洋氏、山田美樹氏、中野岳史氏、

コーディネーター:萩原恒昭氏(日本印刷産業連合会知的財産部会部会長)

- ・入場者：260名

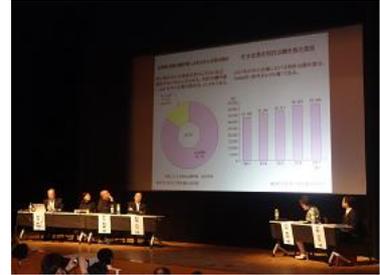
(印刷会社60.0%、法律事務所10.0%、印刷資機材関連6.2%、一般企業5.0%、他18.8%)



特別講演 野老朝雄氏



弁護士鮫島正洋氏の講演



パネルディスカッション

(5) 技術部会

各団体間の交流・連携を深めるため、共通する話題の講演会や、ものづくりの現場の見学会を企画し実施した。社内検定制度の導入サポートは継続中(全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会、全日本シール印刷協同組合連合会)。

- ・講演会『調心〜ビジネスの現場で活かす“禅ZEN”のチカラ』(11月29日、会場：日本印刷会館) 島津 清彦氏を講師に「禅と経営」をテーマとした講演会を実施、参加者：40名。
- ・工場見学会『ANA機体工場見学』(2月14日)、参加者：19名

1) デジタルプレス推進協議会

2010年から実施しているアンケート調査を今年度も継続して実施。協議会でアンケート項目に関して議論を行い、自社においてデジタル印刷が有版印刷よりも有利な点、などの設問を追加して実施した。

- ・「デジタル印刷の現状と展望」に関する調査報告会
(3月26日、会場：日本印刷会館)、参加者：151名
第1部「印刷業界におけるデジタル印刷に関するアンケート調査」報告
 (公社)日本印刷技術協会 郡司 秀明氏、花房 賢氏
第2部「Hunkeler Innovationdays 2019」視察報告
 (有)メディアテクノス 井上 秋男氏
第3部 パネルディスカッション
 「印刷の価値が変わる。どのように」
 モデレーター 郡司 秀明氏
 パネリスト フュージョン(株) 花井 秀勝氏
 (株)グーフ 岡本 幸憲氏
 日本フォーム印刷工業連合会 山口 実氏
 井上 秋男氏



技術部会講演会



デジタルプレス調査報告会

2) 印刷用語集改訂委員会

委員会において、今後、新しい用語を登録する際の役割と手順を検討し決定した。また、委員からグラフィア関連の用語を追加したいとの要望があり、分科会で検討を行い、1月に追加登録を実施した。
(新規：51、修正：16)

3) 技能五輪国際大会

中央職業能力開発協会(JAVADA)の依頼を受け、2019年8月にロシア連邦・カザンで開催される第45回技能五輪国際大会の「印刷職種」の日本代表選手選考会を開催し、以下の通り決定した。

- (入賞者) 金賞 湯地 龍也 凸版印刷㈱
 銀賞 甲斐田 光 ㈱丸信
 銅賞 湯田 鈴音 亜細亜印刷㈱

また、代表選手決定後は、選手強化のための訓練支援を実施している。

- 技能五輪運営協議会
 前回の選考会の反省から、最終選考会（実技試験）に進める選手数を増やすため、競技内容の見直しを実施し、従来の6名を8名に変更。
- 技能五輪審査委員会
 最終選考会（実技試験）の審査方法を、国際大会での審査方法に近づけるため、測定機器・方法を検討し、審査基準の見直しを実施。
- 技能五輪強化委員会
 今回と以前のエキスパート3名の指導者を中心に、選手強化のための訓練支援を実施。

第45回技能五輪国際大会(ロシア連邦・カザン大会)「印刷職種」日本代表選手選考会 日程		
主 催： (一社)日本印刷産業連合会		後 援： 東京都
協 賛： ハイデルベルグ・ジャパン㈱、富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ㈱、東洋インキ㈱、㈱T&K TOKA、日本製紙連合会		
日 程	内 容	実績・他
7月 4日 (水)	応募説明会	参加:7社 12名
7月 13日 (金)	応募締切	応募:7社 8名
7月 23日 (月)	第一次選考会 教育セミナー(座学)	
8月 3日 (金)	第一次選考会(筆記試験・面接)	
9月 1日 (土)	調色トレーニング(研修)	東洋インキ(株)川口
9月 26日 (水) ~28日 (金)	実機トレーニング(研修)	東京都立中央・城北 職業能力開発センター
10月 22日 (月) ~24日 (水)	最終選考会(実技試験)	東京都立中央・城北 職業能力開発センター
11月 15日 (木)	日本代表選手(候補者)発表	湯地龍也(ゆじりゅうや)
12月 12日 (水) ~13日 (木)	中央職業能力開発協会 主催 「日本代表選手決定通知書授与式」	クロス・ウェーブ船橋



最終選考会の競技風景



日本代表選手決定通知書授与式

3 企業行動委員会

【1】概要

企業行動委員会は、印刷産業がSDGsの17の目標を視野に社会やステークホルダーからの要請・期待に対して、的確に応え行動できるよう、以下の4つの部会を編成し、それぞれのテーマに沿った活動を積極的に展開した。

情報セキュリティ部会においては、2017年5月30日の改正個人情報保護法の全面施行、それにとまなう同年12月20日の「JIS Q 15001:2017」（新JIS規格）の発効、また2018年5月25日のEU（欧州連合）における「EU一般データ保護規則」（GDPR）の施行に焦点を当て、さらには高度化する標的型攻撃メールを中心としたサイバー攻撃が増加する現状を踏まえて、部会活動を実施した。具体的には、2018年3月に改定した印刷産業における個人情報保護ガイドラインの解説書としての書籍「印刷産業における個人情報保護の手引き（JIS Q 15001:2017 付属書A（規定）準拠）」及び新刊書籍「印刷産業のための個人情報保護の手引き 構築支援ツール 参考資料集（JIS Q 15001:2017 準拠）【CD付】」を発行した。また、第1回個人情報保護研究セミナー「EU一般データ保護規則（GDPR）対策セミナー ～世界的潮流となった個人情報保護の基本とあまり知られていない落とし穴～」を2018年12月に開催した。

法令制度部会では、2018年6月に2019年度の税制改正要望の取りまとめに向け、10団体経由で各会員企業に税制要望等を依頼、9月13日に部会で内容を検討し、会計士のチェックを経て9月19日に経済産業省企業行動課に「2019年税制改正要望書」を提出した。また、安倍政権による一億総活躍社会実現に向けた対策である「働き方改革」に関連するセミナーを企画し、11月2日に日印産連2階会議室において「働き方改革から学ぶ生産性向上セミナー」を開催した。

女性活躍推進部会の活動は4年目を迎えた。委員出席による定例会議を3回開催し、印刷工業会及び全印工連の女性活躍推進及びダイバーシティへの取り組み等の活動報告を中心に、各団体の女性活躍推進への取り組み状況の共有化をはかった。また、前期に企画立案した第三回女性活躍推進セミナー「ダイバーシティ経営の可能性～女性の登用は業績向上の特効薬！！」を5月9日に日印産連2階の大会議室で開催した。さらに、平成30年度の取り組み重点テーマ「印刷産業に働く女性の連携を強化する」を具現化する施策である、女性活躍推進部会 拡大版プログラム「WAIGAYA」を日印産連会員団体企業の施設を利用して連続して3回開催し、印刷業界の女性リーダーのネットワークの基礎づくりを行った。

労働安全衛生部会では、ワーキンググループ（座長：寺田勝昭）を設置し、「VOC警報器の普及拡大」を重点テーマとして活動を進めた他、「化学物質のリスクアセスメントシートのリリース」や「化学物質管理の徹底」に取り組んだ。「VOC警報器の普及拡大」は、「IGAS2018」での展示・紹介に加え、第77回全国産業安全衛生大会で活用事例を発表する等で対外的にアピールした。また、「化学物質のリスクアセスメントシート」は、日印産連で印刷業界向けのシートを作成し、4月にリリースした。その他として、化学物質管理の徹底を図るべく、中災防・大阪労働衛生総合センター所長の圓藤吟史氏による講演会を開催した。

委員会名（分科会）	開催回数	実施内容
企業行動委員会	2回	*個人情報保護、情報セキュリティへの対応 *税制・下請法・規制改革等への対応 *女性の活躍推進に繋がる各種施策・情報への対応 *安全衛生・リスクマネジメントへの対応

① 情報セキュリティ部会 ■個人情報保護WG	2回 10回	・書籍「印刷産業のための個人情報保護の手引き (JIS Q 15001:2017 付属書A(規定)準拠) の発行
② 法令制度部会	1回	・「働き方改革から学ぶ生産性向上セミナー」の開催
③ 女性活躍推進部会	3回	・女性活躍推進部会拡大版「WAIGAYA」を3回開催
④ 労働安全衛生部会 ■労働安全衛生WG	1回 1回	・日印産連 2018 版「化学物質のリスクアセスメントシート」(パソコン版) のリリース
■VOC警報器普及拡大WG	12回	・VOC警報器の普及拡大に向けた取組、導入企業の活用事例紹介、セミナー等での周知

《本委員会開催日》

第1回 2018年 9月 4日(火) 於：日本印刷産業連合会 会議室

第2回 2019年 2月 26日(火) 於：日本印刷産業連合会 会議室

【2】委員名簿

企業行動委員会 (計 15名)

(敬称略、◎は委員長、○は部会長)

連合会役職名	所属団体		氏名	会社名
	団体名	役職名		
◎常任理事	印刷工業会	副会長	堆 誠一郎	宝印刷(株)
○情報セキュリティ部会長	印刷工業会		成澤 晃一	凸版印刷(株)
○法令制度部会長	印刷工業会		関根 克彦	(株)DNPアカウンティングサービス
○女性活躍推進部会長	印刷工業会		澤田 千津子	凸版印刷(株)
○労働安全衛生部会長	印刷工業会		城戸崎 博	共同印刷(株)
	印刷工業会	監事	酒井 隆	(株)リーブルテック
	全印工連	常務理事	三島 秀夫	六三印刷(株)
	フォーム工連	常任理事	大平 直木	トッパン・フォームズ(株)
	ジャグラー	専務理事	沖 敬三	勝美印刷(株)
	全日本製本	理事	大熊 茂樹	(株)大熊製本
	G C J	専務理事	竹ノ上 蔵造	(株)第一製版
	全日本シール	理事	宍戸 伊助	大輪印刷(株)
	全国グラビア	副会長	大月 正雄	(株)セイユー
	スクリーン・デジタル	専務理事	飯島 英毅	スクリーン・デジタル
	全日本光沢	副会長	小原 隆	大和紙工業(株)

【3】主な実施内容

(1) 情報セキュリティ部会

平成30年度、情報セキュリティ部会は日印産連ランドデザインのお考えに基づく以下の3項目を基本方針とした平成29年度の活動を踏襲した形で部会活動を行った。

- 個人情報保護を中核とした情報セキュリティの徹底により、事故防止はもとより、印刷事業者や印刷業界全体の信頼を獲得し、事業発展に寄与する。
- 情報セキュリティ部会以下、プライバシーマーク審査センター・審査員・個人情報保護WG・構築支援ツール班・事務局の連携により、印刷事業者にとって有益な成果を挙げる。
- 原稿や製品の取扱いに係る情報セキュリティについては、当面、事業者ごとの取組みに委ねることとし、サイバーセキュリティについては、公開情報の積極的な活用(情報共有化)を図る。

2017年5月30日の改正個人情報保護法の全面施行、それにともなった同年12月20日の「JIS Q 15001:2017」（新JIS規格）の発効、また2018年5月25日のEU（欧州連合）における「EU一般データ保護規則（GDPR）の施行に焦点を当て、さらには高度化する標的型攻撃メールを中心としたサイバー攻撃が増加する現状を踏まえて、部会活動を推進した。

平成30年度の主な実績としては、2018年3月に改定なった印刷産業における個人情報保護ガイドライン（JIS Q 15001:2017 附属書A(規定) 準拠）の解説書としての書籍「印刷産業のための個人情報保護の手引き（JIS Q 15001:2017 附属書A(規定) 準拠）」及び新刊書籍「印刷産業のための個人情報保護の手引き 構築支援ツール 参考資料集（JIS Q 15001:2017 準拠）【CD付】」を発行した。

また、第1回個人情報保護研究セミナー「EU一般データ保護規則（GDPR）対策セミナー ～世界的潮流となった個人情報保護の基本とあまり知られていない落とし穴～」を2018年12月に開催した。

1) 部会、個人情報保護ワーキンググループの活動

2018年8月31日に、委員交代による委員2名を新たに迎え、第1回情報セキュリティ部会を開催した。最初に、サイバーセキュリティに関する最近の動向について配布資料に基づいて部長から解説があり、関連するIPA映像コンテンツ「そのメール本当に信用してもいいんですか？-標的型サイバー攻撃メールの手口と対策-」を視聴し意見交換を行った。その後、新刊書籍「印刷産業のための個人情報保護の手引き」編集方針等の説明及び新刊書籍「印刷産業のための 個人情報の手引き構築ツール 参考資料集」の内容の解説があり、制作の進行状況を確認した。

個人情報保護ワーキンググループは、今年度も、外部から鈴木靖氏（JIS Q 15001 個人情報保護マネジメントシステム改正案作成委員会委員）をアドバイザーとして招き、4月から2月まで10回開催した。印刷事業者にとって、個人情報保護法とJIS規格とのダブルスタンダードとならないような手引きの解説、更にひな形として用いることのできるルール集・様式集の整備に努めた。9月にワーキンググループ座長が野津秀穂氏から上田伊佐男氏に交代した。

2) 印刷事業者の「個人情報保護意識」のさらなる高揚と実践への取り組み

- ① 『EU一般データ保護規則（GDPR）対策セミナー ～世界的潮流となった個人情報保護の基本とあまり知られていない落とし穴～』と題して、情報セキュリティ部会主催の第1回個人情報保護研究セミナーを2018年12月に開催し、80名が参加した。
- ② Pマーク取得印刷事業者の内部監査員養成を目的とした「PMS内部監査員セミナー」を、新JIS規格対応のテキスト・副教材を作成して東京で2回（10/22、11/21）開催し、全部で22社32名の参加があった。
- ③ 平成26年度（2014年度）に着手した「印刷産業のための 個人情報保護マネジメントシステム構築支援ツール」は、2017年12月にJIS Q 15001:2006 準拠版として完成をみた。今年度、見直し編集作業を行い、新JIS規格に対応した「印刷産業のための個人情報保護の手引き 構築支援ツール 参考資料集（JIS Q15001:2017 準拠）」として刊行することができた。

3) 「個人情報保護に関する情報」の公開

「プライバシーマーク審査センターHP」において継続して、個人情報保護に関する諸情報、個人情報保護委員会及び（一財）日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）等からの発信情報などを掲載した。今期は、新JIS規格への対応やEU一般データ保護規則（GDPR）に関する情報等をタイムリーに掲載し、印刷事業者の個人情報保護に関するさらなる注意を促した。

4) 個人情報保護WG制作の新刊「印刷産業のための個人情報保護の手引き」及び、構築支援ツール班制作の新刊「構築支援ツール 参考資料集」の頒布・活用促進

新JIS規格の発行に対応してWGで検討を重ね、印刷産業における個人情報保護ガイドライン（2007年7月制定）を2018年3月に新JIS規格準拠に改定した。このガイドラインの解説書として新刊「印刷

産業のための個人情報保護の手引き」を、併せて新刊「構築支援ツール 参考資料」を発刊、事業者のPMS構築・運用に活用していただくことを目的に日印産連HPや10団体の事務局を通じて周知を行った。

＜有料頒布実績＞

- ・ 新刊「印刷産業のための個人情報保護の手引き」：453部（2018.8～2019.1.31）
- ・ 新刊「構築支援ツール 参考資料集」：158部（2018.11～2019.1.31）
- ・ 旧版「印刷産業のための個人情報保護の手引き」：4部
- ・ 「印刷現場における個人情報保護ワンポイントレッスン」：15部
- ・ 「印刷現場における個人情報保護Q&A」：3部
- ・ 「マイナンバー取扱ハンドブック」：12部 [2018.4.1～2019.1.31 頒布分]



印刷産業のための個人情報保護の手引き



構築支援ツール 参考資料集

5) 広報活動

日印産連機関誌「JFP Iレポート」への出稿

- ・ JFP Iレポート2018年4月号・7月号・10月号、2019年1月号に、個人情報保護研究セミナーの開催実績、プライバシーマーク取得事業者の集いの開催要領、新刊書籍の紹介及び個人情報に関する事故報告等に関する記事を掲載し情報提供を行った。

(2) 法令制度部会

1) 経済産業省に「2019年度税制改正要望書」を提出

2018年6月に2019年度の税制改正要望に向けた税制要望等のとりまとめを10団体経由で各会員企業に依頼した。その後、2018年9月13日に部会を開催し、会計士のチェックを経て同月19日に10団体と連名で経済産業省企業行動課に「2019年度税制改正要望書」を提出した。要望事項は、前年からの継続要望が23項目、新規要望が5項目の合計28項目で、法人実効税率の更なる引き下げ、中小企業における軽減税率の特例の延長、外形標準課税の導入拡大の反対、投資促進税制や消費税の仕入税額控除制度（95%ルール）の復活等を要望した。

2019年度税制改正のトピックスは、消費税率の引上げに際し、需要変動の平準化等の観点から、住宅ローン控除の拡充や、自動車税の税率引下げ等、税制上の支援策を講じている。

また中堅・中小企業による設備投資を支援するための措置の延長や、中小企業の代替わりを促進する事業承継税制の拡充、地方税体系構築の観点から、特別法人事業税等の創設を行っている。

2) 「働き方改革から学ぶ生産性向上セミナー」の開催

安倍政権の一億総活躍社会実現に向けた対策である「働き方改革」に関連するセミナーを開催した。我が国は「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」「育児や介護との両立」など、働く人のニーズの多様化などの状況に直面している。「働き方改革」は、多様な働き方を選択できる社会を実現し、より良い将来の展望を持てるようにすることを目指している。こうした中、企業には生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境を作ることが重要な課題になっており、印刷業界も従来からの意識を変革した時代に即した企業経営が求められている。

日印産連の法令制度部会は、この法案成立に合わせて11月2日（金）に日本印刷会館2階会議室にて「働き方改革から学ぶ生産性向上セミナー」を開催した。

講師は、小島経営労務事務所の特定社会保険労務士小島信一氏にお願いし、労働基準法の改正点及び働き方改革関連法の概要、従業員のワーク・ライフ・バランスを実現する環境整備と企業の実生産性向上に向けた働き方改革事例の紹介、各種助成金・補助金のしくみや申請方法などを焦点に説明を行った。参加者は労務管理部門の責任者及び実務担当者をはじめ、会社経営者が約70名参加した。



講師 小島 信一氏



「働き方改革から学ぶ生産性向上セミナー」会場風景

(3) 女性活躍推進部会

化粧品会社、百貨店、航空会社など女性社員の比率が高い企業は、女性のライフイベントを考慮した制度の早い時期からの導入や、女性が働きやすい職場環境の整備、また女性を部下に持つ上司の教育、女性の管理職への登用に取り組んできた。途中、過剰な制度充実が女性活躍推進を阻むこともあり、大きく見直しを行いながら、職場の調和、仕事の効率化、生産性の向上をはかってきている。また、女性社員の割合が普通の企業においても女性活躍推進法が施行される2、3年前から女性活躍推進に取り組んで実績を積み重ねている企業もあり、平成30年度に開催された関連のセミナーでは、女性活躍推進だけで取り上げられることは少なく、女性活躍推進を入口としたダイバーシティ・マネジメントについて取り上げられることが多かったように思える。印刷産業においては経営戦略としてダイバーシティ・マネジメントに取り組む企業はまだ少ない。

このような環境において、日印産連 女性活躍推進部会は平成27年度の部会設立時に策定した以下の活動方針に基づき、平成30年度も継続して活動を行った。

【活動方針】

1. 女性の活躍推進に関する国及び会員団体の情報等を10団体で共有する
2. 女性の活躍推進に向け経営者の意識の変革を行う
3. 印刷産業に働く女性の連携を強化する
4. 印刷産業における女性の活躍推進に関する活動情報を発信する

【具体的活動実績】

1) 定例会議の開催

委員出席による定例会議を3回開催し、印刷工業会及び全印工連の女性活躍推進及びダイバーシティへの取組み等の活動報告を中心に、各団体の女性活躍推進への取組み状況の共有化をはかった。経団連における女性活躍推進及びダイバーシティ・マネジメントに関する委員会活動報告や加盟企業の取組み事例等及びJDN研究会等の資料を参考に女性活躍推進に関する理解度の向上をはかった。また、今年度の活動方針に掲げた「印刷産業に働く女性の連携を強化する」というテーマの具現化をはかった。

- ・第1回（メンバー3名変更あり）定例会議（8/10）
 - ①女性活躍推進部会 平成30年度具体的活動内容について
 - ②印刷工業会、全印工連の女性活躍（ダイバーシティ）関連の30年度計画について（他8団体の女性活躍推進に関する取組みの報告（該当する報告テーマがある場合））
 - ③女性活躍推進部会 拡大版プログラム「WAIGAYA」（仮称）の実施について
 - ④女性活躍推進セミナーの継続開催について（日印産連 第三回女性活躍推進セミナー（5/9）のアンケート結果について
- ・第2回定例会議（10/31）
 - ①第1回WAIGAYA（11/9開催）の実施要領について
 - ②第2回WAIGAYAのプログラム内容（案）について
 - ③WAIGAYA参加者等の費用負担について

2) 第3回女性活躍推進セミナー『ダイバーシティ経営の可能性～女性の登用と業績の向上はどう結びつくのか』の開催

- ①目的：印刷業界における女性活躍推進に取り組む風土醸成に向け、企業において女性活躍推進・ダイバーシティを実質的に進展させるための考え方及び施策等について、経営者層に向けて発信する。
- ②対象：日印産連に加盟する印刷関連10団体会員企業の経営層及び管理職層他
- ③開催日時：2018年5月9日（水）14:00～16:00
- ④会場：日本印刷産業連合会 2階大会議室（定員：80名）
- ⑤参加者数：86名

3) 女性活躍推進部会 拡大版プログラム「WAIGAYA」を3回開催

- ①目的：イ)印刷業界の女性リーダーのネットワークの基礎づくり
ロ)女性リーダーの力（アイデア）で印刷業界を魅力ある業界にする
ハ)印刷業界で女性が活躍し、女性リーダーを継続的に輩出するための環境づくり
- ②方針：a. 同じメンバー同士で3回にわたり意見交換するという特徴を最大限に活かす。
b. 女性ネットワーキングの心地良さを実感してもらうことで、自社（団体）においても女性をはじめとする誰もが働きやすい環境をつくる旗振り役として、リーダーシップを発揮してもらえるキッカケをつくる。
c. 女性活躍推進部会委員の所属企業（団体）がもつ財産（人財、施設など）を最大限に活用し、刺激的で楽しい会合とする。
- ③開催日：イ)第1回WAIGAYA（トッパン小石川ビル）－2018年11月9日（金）
ロ)第2回WAIGAYA（トッパンフォームズビル）－2019年1月18日（金）
ハ)第3回WAIGAYA（DNP創発の杜 研修センター）－2019年2月22日（金）～23日（土）
- ④参加者：10団体から女性メンバー24名、女性活躍推進部会委員4名、日印産連4名 他



グループに分かれての自己紹介



ワークショップの開催風景

4) 広報活動

「JFPI REPORT」No. 164 (2018年7月号) に記事「日印産連 第三回女性活躍推進セミナー『ダイバーシティ経営の可能性～女性の登用は業績向上の特効薬!!』を開催」を、「JFPI REPORT」No. 166 (2019年1月号) に記事「ワイワイ・ガヤガヤと女性活躍推進部会 拡大版『WAIGAYA』を開催」を掲載した。また、2019年3月発行の「社会責任報告書 SRレポート2018」に女性活躍推進部会の活動内容を掲載した。

5) JDNへの参加

日印産連として平成30年度も継続して(一社) ジャパンダイバーシティネットワーク(JDN)に加入することにより、女性活躍推進をはじめとしたダイバーシティに関する行政の動向や企業の取組先進事例の情報入手手段を確保した。JDN主催の「自律型組織研究会」(リーダー: 郡のぶ氏 株式会社シグマクス ディレクター)と「企業の業績向上に結び付くダイバーシティ・マネジメント入門」(リーダー: 尾崎俊哉氏 立教大学 経営学部教授)2つの研究会に参加して情報収集を行った。また必要とするテーマの場合にダイバーシティ情報交換会に参加し、各企業の取組事例に関する情報収集を行った。ダイバーシティ関連のセミナー紹介等が掲載されたJDNメールマガジンについては、2018年3月から12月まで15回(vol.57～vol.76 欠番5回)、委員に継続して配信し、情報提供を行った。

(4) 労働安全衛生部会

1) 労働安全衛生部会の活動

(部会開催: 2019.2/13 計1回開催)

本年度は、労働安全衛生部会のもとワーキンググループ(座長: 寺田勝昭)を設置しVOC警報器の普及拡大を重点に活動を行った。

- ・平成30年度労働安全衛生部会 活動方針・関連活動の実施
- ・2019年度労働安全衛生部会 活動方針(案)策定

① 平成30年度 労働安全衛生ワーキンググループの活動

(4/20、計1回開催)

i) 日本印刷産業連合会2018版「化学物質のリスクアセスメントシート」

労働安全衛生法の改正により(2016年6月施行)、事業規模にかかわらず化学物質の製造・取扱いを行う全ての事業場を対象にリスクアセスメントが義務づけられた。これに対応するため、厚生労働省の「リスクアセスメントシート」を参考に、印刷業界に特化したリスクアセスメント支援ツールと

して、日本印刷産業連合会 2018 版 「化学物質のリスクアセスメントシート」 (パソコン版) を作成し、使用マニュアルとともに4月にリリースした。運用と普及拡大を進めている。

ii) 化学物質管理の徹底 「VOC 警報器」の普及 (VOC 警報器普及拡大ワーキンググループの活動)

(4/20、5/15、6/12、7/17、8/21、9/19、10/16、11/27、12/18、2019.1/29、2/19、3/19 計 12 回)

オフセット印刷業者の VOC 個人ばく露低減のため、あらかじめ決められた VOC 気中濃度を超えると警報を発し、保護具の利用や、洗浄剤使用量の抑制、職場の換気、作業フローの見直しを促す「VOC 警報器」を新コスモス電機と共同開発し、普及を進めている(2019年3月現在導入台数 計594台)。

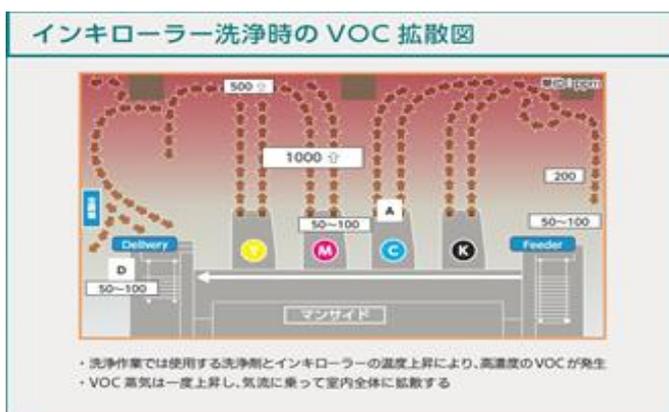
7月の「IGAS2018」で日印産連のブースを設け、実機及びパネルの展示を行った他、10月の第77回全国産業安全衛生大会(主催:中央災害防止協会)での運用状況についての発表や、11月28日に経済産業省と共催で実施した「VOC 排出抑制セミナー」(参加者93名)でも導入工場の活用事例を紹介するなど、普及活動を進めている。また利用者の運用方法などの充実を図るため、当連合会ホームページに掲載している「VOC 警報器、Q&A」は、適宜内容を見直し拡充させている。

iii) 「VOC 警報器」の展開について

日印産連会員10団体で、「VOC 警報器」の販売に協力する団体(印刷工業会、全印工連、フォーム工連、JAGRA)を通じて販売している(販売実績594台)。関連団体とは定期的に状況を確認しており、連携して進めている。また組合加盟会社以外からの問合せもあり、代理店販売も行っている。



VOC 警報器



オフセット枚葉機、VOC 拡散イメージ

2) その他の関連活動

① 化学物質管理の徹底

2012年に発生したたん管がん問題を教訓として、今一度化学物質管理の徹底を図るべく、11月27日に圓藤吟史先生(中央労働災害防止協会、大阪労働衛生総合センター所長)による「印刷業界における化学物質管理の取り組み」と題した講演会(参加者37名)を開催した。



VOC 排出抑制セミナー



圓藤先生講演会

4 地球環境委員会

【1】概要

印刷産業が取り組むべきSDGsの重要課題として、地球環境に配慮した活動を平成30年度も継続して実施した。低炭素社会実行計画、循環型社会形成の2つの自主行動計画について、フォローアップ調査を行うとともに、VOC排出抑制についても平成30年度も会員企業にアンケート調査を通じて取り組み状況を把握し、自主行動計画の推進状況を経済産業省並びに経団連に提出した。

また、2019年1月21日に開催された産業構造審議会 産業技術環境分科会 地球環境小委員会 製紙・板硝子・セメント等WGにて平成30年度「印刷業の低炭素社会実行計画」フォローアップ内容について報告した。

さらに、8月から「プラスチックごみ問題研究会」を立上げ、世界的に問題となっている海洋プラスチックごみ問題への対応を協議し、環境省から提示された「プラスチック資源循環戦略(案)」に関して6件のパブリックコメントを提出した結果、内4件が最終答申案に盛り込まれた。

GP認定制度を広く周知するため、GPマークを多く活用している印刷発注者(クライアント)を表彰する「GP環境大賞」、GPマークを多く表示したGP工場を表彰する「GPマーク普及大賞」に加え、GP資機材認定製品を多く登録しているメーカーを表彰する「GP資機材環境大賞」を創設した。また放送作家の小山薫堂氏による「GP環境大使」活動、並びに「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの継続など、GP制度の普及・認知活動に注力した。

委員会名(分科会)	開催回数	実施内容
地球環境委員会	3回	<ul style="list-style-type: none"> *低炭素社会、循環型社会、VOC排出抑制自主行動計画 *容り法への対応、プラスチックごみ問題への対応 *「印刷サービス」グリーン基準への対応 *GP認定制度への対応 *「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの実施
①環境マネジメント部会	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全活動の充実
■環境自主行動計画推進WG	4回	<ul style="list-style-type: none"> ・低炭素社会、循環型社会、VOC排出抑制自主行動計画
■容り法対応WG	5回	<ul style="list-style-type: none"> ・容り法対応実態調査および取りまとめと周知活動
■古紙リサイクル対応協議会 古紙リサイクル対応WG ISO/TC130/WG11 国内委員会・脱墨分科会	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・トナー方式のデジタル印刷物のリサイクル適性評価方法標準化
■プラスチックごみ問題研究会	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷物の脱墨評価の国際標準規格化、分析・評価 ・海洋プラスチックごみ問題に対する印刷業界の対応
②グリーンプリンティング推進部会	9回	<ul style="list-style-type: none"> ・GP認定制度の改善、推進
■GP資機材検討WPJ	22回	<ul style="list-style-type: none"> ・GP資機材認定基準の策定と拡充の検討
■GP周知活動WG	13回	<ul style="list-style-type: none"> ・GP認定制度の業界内外のマスコミを通じた周知
■GP効果数値化検討WG		<ul style="list-style-type: none"> ・GP認定工場の環境負荷低減効果の確認

《本委員会開催日》

第1回	2018年	7月12日(木)	於：日本印刷産業連合会 会議室
第2回	2018年	12月5日(水)	於：日本印刷産業連合会 会議室
第3回	2019年	3月7日(木)	於：日本印刷産業連合会 会議室

【2】委員名簿

地球環境委員会（計14名）

（敬称略、◎は委員長、○は部会長）

連合会役職	所属団体等		氏名	会社名
	団体名	団体役職		
◎常任理事	全国グラビア	理事長	田口 薫	大日本パッケージ(株)
○環境マネジメント部会長	印刷工業会		菅藤 純平	大日本印刷(株)
○理事/GP推進部会部会長	ジャグラー	副会長	菅野 潔	(株)興栄社
	印刷工業会	理事	田島 久義	(株)久栄社
	印刷工業会		木下 敏郎	凸版印刷(株)
	全印工連	常務理事	惟村 唯博	光写真印刷(株)
	フォーム工連	理事	朝日 健之	(株)木万屋商会
	全日本製本	理事	藤田 裕二	藤田製本(株)
	ジャグラー	理事	尾形 文貴	(株)みつわ
	G C J	事務局長	河野 三男	G C J
	全日本シール	常務理事	渡邊 正昭	(株)文昇堂印刷
	全国グラビア	副理事長	安永 研二	東包印刷(株)
	スクリーン・デジタル	副会長	近藤 浩史	(株)文化社
	全日本光沢	理事	斉藤 辰哉	(有) 斉藤商会

【3】主な実施内容

（1）環境マネジメント部会の活動（6/29,2019.3/1 計2回開催）

本年度は、環境自主行動計画推進WG、容り法対応WG、古紙リサイクル・脱墨分科会を設置し、環境保全活動の充実を図った。

- ・平成30年度環境マネジメント部会 活動方針・関連活動の実施
- ・2019年度環境マネジメント部会 事業計画（案）策定

■環境自主行動計画推進ワーキンググループ

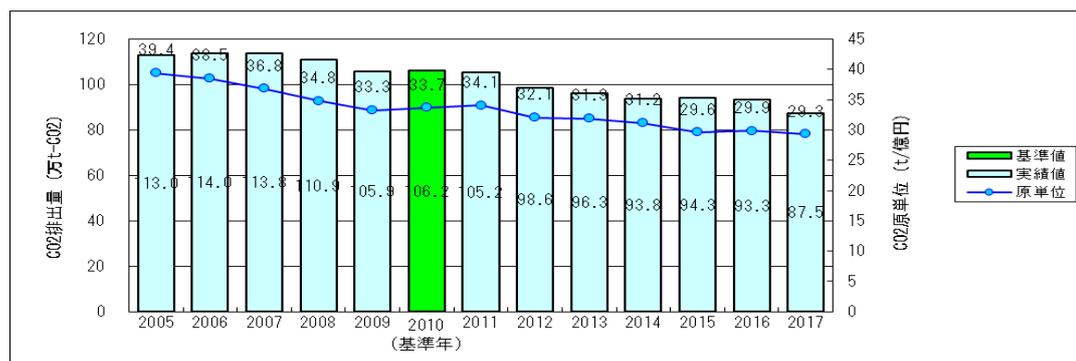
（5/29,6/18,8/8,10/11 計4回開催）

1) 低炭素社会実行計画

平成22年(2010年)度を基準年度とする、2020年度のCO2削減目標を掲げた「低炭素社会実行計画」は、本年度は当初の予定を上回る実績を上げ、87.5万t-CO2、基準年度比▲17.6%の削減となっている。これにより2020年度の目標値をすでに達成した。これには、設備更新による空調および動力関係の高効率化など、事業者の省エネ努力が大きく寄与している。

なお、電力排出係数は基準年度固定で計画し算定しているが、未だ多くの原子力発電所が稼働停止しており電力の排出係数が大きくなっている。本年度(平成30年度)の調整後排出係数で算定すると、CO2排出量は117.9万t-CO2、基準年度比3.8%増、前年度比▲9.2%減となる。

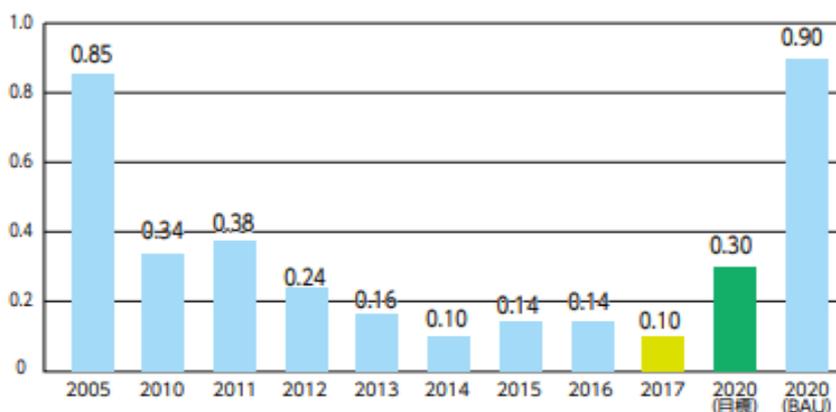
●固定排出係数に基づくCO2排出量（電力排出係数は基準年度固定で算定）



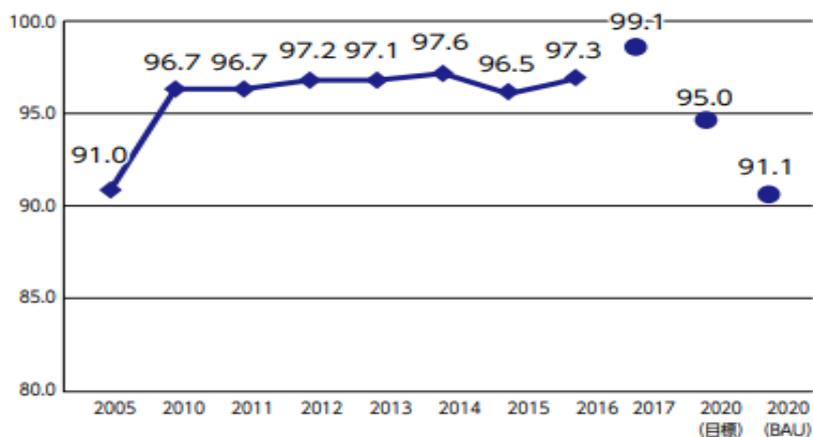
2) 循環型社会形成自主行動計画

本計画は「産業廃棄物最終処分量」と、業界独自の目標として「再資源化率」をその対象としている。産業廃棄物最終処分量は、「2020年を目標年度として年間0.30万トン以下とする」を目標としているが、本年度は、年間0.10万トンの実績となり目標を達成した。再資源化率については、同じく「2020年度を目標年度として、再資源化95.0%以上にする。」としているが、印刷業界独自のグリーン基準の設定、その履行等を積極的に実施し、本年度実績は99.1%と過去最高の再資源化率を達成した。

●産業廃棄物最終処分量（単位：万トン）



●産業廃棄物再資源化率（単位：%）



3) VOC排出抑制自主行動計画

VOC排出量抑制については1999年度を基準年とし、2010年度における排出量の41%削減(68,100トン)を目標としていたが、VOC回収装置の普及等が進み、既に目標は達成している。その後2010年度実績(42,700トン)を基準年とし、この水準を維持することを目標として活動しているが、本年度のVOC排出量は22,800トン(削減率80%)で目標を達成した。

●VOC使用量、排出量実績（単位：万トン）

年度	2000	2010	2014	2015	2016	2017
使用量	204,400	178,400	169,400	143,100	157,500	152,500
排出量	115,500	42,700	28,200	24,500	26,800	22,800
削減率	—	63%	76%	79%	77%	80%
削減量	—	72,800	87,300	91,000	88,700	92,700
排出率	—	24%	17%	17%	17%	15%

■ 容リ法対応ワーキンググループ

(5/28,8/29,12/14,2019.2/28,3/25 計5回開催)

1) 紙製・プラスチック製容器の再商品化実施状況に関する調査報告

容器包装リサイクル法は、印刷産業にとって密接に関連する法律であり、同法に対する意向・要望の集約、紙製容器包装及びプラスチック製容器包装を中心とした正確な数量等の基礎データの充実に努めるべく、アンケートを実施し状況を確認している。

本年度の日印産連会員団体に加盟している印刷会社における再商品化義務量は、紙製容器 438 t (昨年比+22%)、その他プラスチック製容器 5,516 t (昨年比+3%) であった。また特定容器包装の製造量は、紙製容器 53 万 t (昨年比+21%)、その他プラスチック製容器が 27 万 t (昨年比±0%) と見込まれ、経年変化では微減傾向であるものの、平成 30 年度は紙製容器が増加した。

2) プラスチック製容器包装・PETボトルの再商品化入札制度等の見直し

プラスチック製容器包装について入札制度が見直され、平成 28 年度から実施されている。特に入札事業者の総合的評価制度の導入や、それに伴う落札可能量の設定等が行われ、また「PET ボトルリサイクルの在り方について検討会」が開催されており、今後もその動向・影響について確認していく。

■ 古紙リサイクル・脱墨分科会

ISO/TC130/WG11 国内委員会

脱墨分科会開催：7/19, 10/10, 2019.1/24 計3回

デジタル印刷ワーキンググループ開催：9/6 計1回

1) ISO TC130/WG11 (環境) における印刷物の脱墨評価方法の国際規格化

日本製紙連合会および各製紙各社も参画し、用紙リサイクル、脱墨方法の国際標準化について内容を詰めている。脱墨評価方法の標準化から、脱墨パルプの評価に論点が移行しており、紙パルプの標準化を進める ISO/TC6 (紙・パルプ) 国内委員会を中心となって進めている。

2) トナー型デジタル印刷物のリサイクル適性評価試験方法の精度向上

同試験のトナーインクを分離するフローテーション工程での、試験実施者による評価のバラツキを防止するために、専用治具を作り安定性向上を進めている。各デジタル印刷機メーカーからサンプルを入手し評価テストを実施した結果、専用治具を使用することで評価のバラツキが少なくなることが確認されたため、専用治具を用いた試験を行うことをベースに標準試験法を改訂し、9月6日の「デジタル印刷ワーキンググループ」で了承された。2019年度より運用を開始する。

■ プラスチックごみ問題研究会開催

(8/1、計1回)

1) 海洋プラスチックごみ問題への対応

印刷業界としてプラスチックごみ問題への対応を協議すべく、年度の途中から「プラスチックごみ問題研究会」を立ち上げた。

環境省から提示された「プラスチック資源循環戦略(案)」に対しては、日印産連として6件のパブリックコメントを提出した結果、内4件が何らかのかたちで最終答申案に盛り込まれた。

経産省主導で設立された「CLOMA(クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)」に一般会員として登録し、その中の「普及促進部会」に所属し、プラスチックを取り扱うサプライチェーンの業界・企業との枠を超えた取り組みを進め、主に各業界・企業向けの情報発信や印刷業界の技術動向の発信を行った。

また、環境省主導で設立された「プラスチック・スマート・キャンペーン」にも登録し、主に生活者や自治体向けの情報発信を行った。

(2) グリーンプリンティング推進部会の活動

(4/12,6/7,7/4,9/10,10/10,11/29,12/27,2019.2/5,3/1 計9回開催)

本年度は、GP 資機材検討 WPJ、GP 周知活動ワーキンググループ、GP 効果数値化検討ワーキンググループを設置して、グリーンプリンティング認定制度の具体的な活動を推進した。特にグリーン基準各項目とSDGsとの紐付けを行った。

■GP 資機材検討 WPJ

- ・ケミカル分科会開催：5/16,6/25,7/2,8/28,10/3,11/14,2019.1/16,3/6 計8回
- ・ハード・ソフト分科会開催：5/16,8/28,11/14,2019.1/16 計4回
- ・製本用接着剤分科会開催：5/16,6/25,7/2,9/4,10/3,11/9,12/7,2019.1/15,2/20,3/27 計10回

1) ケミカル分科会

ケミカル分科会では現状の情報交換を行うとともに、日印産連・リスクアセスメントシート内容とGP資機材認定基準との整合性をとり、基準改定を行った。

2) ハード・ソフト分科会

デジタル印刷機の新製品等の情報交換を行うとともに、インクジェットのVOC定義について検討を行った。VOCの定義については、国際規格との整合性を取るため、ISO/TC130/WG11の検討結果を待つこととなった。

3) 製本用接着剤分科会

製本用接着剤分科会では、昨年度に引き続き、新規認定品目として製本用接着剤の認定基準の検討を行った。その結果、洗浄剤の基準をベースにしながらも、VOC削減の項目については製本用接着剤の実態を考慮した基準とした。2月に当連合会ホームページ並びに日本接着剤工業会に連絡の上、基準案公開並びに意見募集を行い、3月1日に正式に基準が決定した。3月14日に第1回認定を行い、2019年度から認定製品の公開を行う。

■GP 周知活動ワーキンググループ

開催：4/19,5/8,5/29,6/28,8/1,8/30,9/14,10/10,10/29,11/29,12/27,2019.2/19,3/20 計13回

1) GP 環境大賞、GP マーク普及大賞の継続実施及びGP 資機材環境大賞の新設

GP マーク及びGP 認定制度を広く周知するため、GP マークを多く活用しているユーザーを表彰するGP 環境大賞、及び受注印刷製品にGP マークを多く表示したGP 工場を表彰するGP マーク普及大賞を継続して実施した。また、GP 資機材認定製品を多く登録しているメーカーを資材と機材の部門に分けて表彰するGP 資機材環境大賞を新設した。

GP 環境大賞4社・団体（NTTタウンページ㈱、㈱タカラトミーほか）、準大賞5社・団体（東京都、東武鉄道㈱ほか）、GP マーク普及大賞1社（六三印刷㈱）、準大賞4社、GP 資機材環境大賞資材部門1社（富士フィルム㈱）、機材部門1社（㈱SCREEN グラフィックソリューションズ）を表彰した。

2) グリーンプリンティング PR 大使活動の継続

GP 認定制度の社会的認知度を高め、消費者にとって身近な存在としてアピールするため、前々年度に任命した小山薫堂氏に継続してグリーンプリンティング PR 大使活動をお願いした。PR 大使のアドバイスによる「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを継続実施したほか、PR 大使紹介により日本空港ビルデング㈱主催の「旅する日本語」展のポストカードにGP マークを表示した。また、トークショー並びに「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの審査委員長、表彰式プレゼンター等を行っている。



3) 第2回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの実施

GP 認定事務局が主催者となり、昨年度に引き続き第2回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを実施した。小山薫堂氏を審査委員長に迎え、一般の部、小学生の部に分けて6月に募集したところ707作品の応募があり、うち23作品を受賞作品とし表彰式を行った。また受賞作品集を発行した。



第2回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト表彰式

4) 2018 グリーンプリンティング認定制度表彰式／第2回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト表彰式の実施

2018年11月7日(水)14:00～18:30、経団連会館・経団連ホールにおいて、2018グリーンプリンティング認定制度表彰式、並びに第2回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト表彰式を実施した。当連合会浅野健副会長の挨拶の後、GP環境大賞・GPマーク普及大賞、GP資機材環境大賞、「印刷と私」エッセイ作文コンテスト表彰式、印刷クライアント・自治体・GP工場から各1名参加によるGP認定制度をテーマにしたパネルディスカッションを行うとともに、小山薫堂氏と小池アミイゴ氏(イラストレーター)による「印刷と私」トークショー、及び記念パーティーを行った。GP工場、GP資機材参加メーカー、受賞者、ご来賓等、216名により盛大に行われた。



5) グリーンプリンティング認定工場アンケート調査の実施

GP認定工場の立場に立ったGP認定制度の改善並びにGPマーク普及等周知活動の充実のため、全GP認定工場に対し、アンケート調査を10～11月に実施した。回答は143事業所(回収率37%)であった。

6) こどもエコクラブ全国フェスティバル2019への出展

2019年3月24日(日)に開催された「こどもエコクラブ全国フェスティバル2019」(主催:公益財団法人日本環境協会)において、印刷の仕組みと印刷の環境配慮について、参加者(小学生中心)に対し展示・説明を行った。



こどもエコクラブ全国フェスティバル 2019

■GP 効果数値化検討ワーキンググループ

ワーキンググループの開催はなかったものの、活動としてグリーン基準各項目と SDGs との紐付けを行った。今後は、従来からまとめている調査票に基づき、環境負荷低減実態調査を行い、GP工場の効果を数値化し、発表する予定である。

◆関連する部会の活動状況

○ 顕彰委員会関連

(1) 平成 30 年度第 17 回印刷産業環境優良工場表彰

選考委員会開催：7/18 計 1 回

本年度は昨年度に引き続き「小規模事業所部門」を設置の上、実施した。第 1 次応募は選択式、第 2 次は記述式の審査応募とした。応募総数は 57 工場となり、この応募工場に対して審査・選考を実施後、理事会を経て経済産業省に表彰工場の申請を行い、創設以来初めてとなる 2 社同時に経済産業大臣賞を受賞し、9 月に行われた「印刷の月 記念式典」で表彰した。



経済産業大臣賞を受賞した池田印刷（株）京浜島工場



同、トッパン・フォームズ関西（株）大阪桜井工場

(2) 2019 年度第 18 回印刷産業環境優良工場表彰

審査委員会開催：11/13,12/19,2019.1/30,2/20 計 4 回

2019 年度も小規模事業所部門を設置し、日印産連会員 10 団体と協力して実施している。第 1 次応募は選択式で、平成 30 年度と同程度の計 52 工場（平成 30 年度第 17 回は 51 工場）の応募があった。この後、第 2 次応募は記述式応募票にて進める。

(3) 2018GP 環境大賞・2018GP マーク普及大賞・2018GP 資機材環境大賞

選考委員会開催：7/18 計 1 回

昨年に引き続き、GP マーク表示印刷製品を多く発注したクライアントへ感謝の意を表すべく GP 環境大賞を実施するとともに、受注印刷製品に GP マークを多く表示した GP 工場を他の工場の模範として表彰する GP マーク普及大賞を実施した。また、GP 資機材認定製品を多く登録しているメーカーを表彰する GP 資機材環境大賞を実施した。受賞者は次のとおり。

【2018G P環境大賞】（4社・団体）

NTT タウンページ株、大阪商工信用金庫、埼玉県議会、(株)タカラトミー

【2018G P環境準大賞】（5社・団体）

(株)ジェイアール東日本企画、宗教法人「生長の家」、東京都、東武鉄道株、レインボー薬品株

【2018G Pマーク普及大賞】（1社）

六三印刷株

【2018G Pマーク普及準大賞】（4社）

伊藤印刷株、岩岡印刷工業株、(株)笠間製本印刷、(株)文伸

【2018G P資機材環境大賞】（2社）

資材部門：富士フィルム株、機材部門：(株)SCREEN グラフィックソリューションズ

(4) 第2回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト

「印刷と私」コンテスト審査委員会：9/28 計1回

社会に広く印刷の役割を再認識してもらうため、グリーンプリンティング認定事務局が主催し、第2回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを実施した。2018年6月11日～8月26日で募集。707作品の応募があり、一般の部、小学生の部に分け小山薫堂最優秀賞各1作品、小山薫堂優秀賞一般の部2作品、小学生の部4作品、優秀賞各3作品、佳作一般の部5作品、小学生の部4作品が受賞した。また受賞23作品は作品集としてまとめ発行した。なお、受賞作品集の表紙イラストは小池アミイゴ氏にお願いした。



*グリーンプリンティング認定事業の活動状況はG P認定事業の章を参照

5 広報委員会

【1】概要

2009年に開催してから9年ぶりに東京でFAPGA アジア印刷会議を開催するとともに、IGASの会期中に毎回開催している国際印刷フォーラムの開催および、初めての試みとしてJapan Printing Exhibition (JPEX) ブースの出展を行うなど、大きなイベントが目白押しに開催された。またWPCF世界印刷会議も、例年の欧州におけるIntergrafとの合同会議ではなく、上海でAll-in-Print China及びChina Printing Summitと連動する形で開催され、Printing Summitでは日印産連としての発表も行った。

「9月印刷の月」記念式典ではサステナビリティ日本フォーラム 代表理事の後藤 敏彦氏より「SDGsへの対応～大激変の時代、21世紀型ビジネスモデルの構築に役立たせる～」の講演をいただき、SDGsに対する認識の向上に努めた。

主催4コンクール展では、カレンダーと造本が微減ではあったものの、カタログとJPCが増加するなど厳しい環境の中でも改善の兆しが見えてきた。またカレンダーと造本は海外のコンテストと提携関係にあり、日本の受賞作品が『世界で最も美しい本コンクール2019』と『グレゴリー・カレンダーアワード』に出品されているが、今年も優秀な成績を収めることができた。

また第2回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストは、今年度は経団連ホールで表彰式の開催を行い、この賞の認知度の向上を目指した。

委員会名	開催回数	実施内容
広報委員会 ○広報・企画部会 ・FAPGA2018 展示 WG ・主催コンクール展示企画 WG	2回	＊FAPGA アジア印刷会議の東京開催 ＊IGAS2018 における国際印刷フォーラム開催 ＊IGAS2018 における JPEX ブース出展 ＊WPCF 世界印刷会議(上海)への参加 ＊2018 年「9月印刷の月」記念式典・懇親会の開催 ＊主催 4 コンクール展の開催 ＊「JFPI 社会責任報告書 2018/2019」の発行 ＊技能五輪や『印刷と私』作文コンクールなどを通じた印刷業界のアピール ＊日印産連ホームページの運営 ＊機関誌「JFPI REPORT」の発行 ＊関連団体等への後援・協賛 ＊マスコミ懇談会の開催

《本委員会開催日》

第1回 2018年 9月 3日(月) 於：日本印刷産業連合会 801 会議室
 第2回 2019年 2月 21日(木) 於：日本印刷産業連合会 801 会議室

【2】委員名簿

広報委員会 (計12名)

(敬称略、◎ は委員長 ○ は部会長)

連合会役職	所属団体		氏名	会社名
	団体名	団体役職		
◎	印刷工業会	理事	岩岡 正哲	岩岡印刷工業(株)
○広報・企画部会長	印刷工業会		佐々木 大輔	大日本印刷(株)
常任理事	印刷工業会	専務理事	藁科 忠	印刷工業会
	全印工連	常務理事	白橋 明夫	(株)白橋
	フォーム工連		藤本 昭彦	(株)イセトー
	ジャグラ	理事	早坂 淳	(株)ケーヨー
	全日本製本	理事	鈴木 博	鈴木製本有限会社
	G C J	副会長	井上 亘	(株)ショウエイ
	全日本シール	専務理事	片桐 敬喜	全日本シール
	全国グラビア	副理事長	竹下 晋司	(株)ダイコー
	スクリーン・デジタル	副会長	内藤 正和	内藤プロセス(株)
	全日本光沢	理事	木村 亨	旭紙化工(株)

【3】主な実施内容

(1) FAPGA アジア印刷会議の東京開催

2009年に開催してから9年ぶりに東京でFAPGAアジア印刷会議（2018年7月26～28日）を開催。参加国は、オーストラリア（2名）、中国（2名）、インド（3名）、マレーシア（1名）、ネパール（2名）、フィリピン（2名）および日本。海外からは12名が参加した。



(2) 国際印刷フォーラムの開催

IGAS2018の会期中（2018年7月26～31日）に東京ビッグサイトの会議棟6Fにて国際印刷フォーラムを開催。米国印刷技術協会のThayer Long氏による基調講演『印刷産業におけるイノベーションと世界の動向』のほかに、FAPGAメンバーの発表及びパネルディスカッションを行う。来場者約100名。



(3) IGAS2018におけるJPEXブース出展

日印産連と10団体がJapan Printing Exhibitionという名称で、初めて独自ブースを2か所に設けた。ガレリアブースでは、日印産連主催4コンクール（カレンダー、カタログ、造本装幀、JPC）と、シール・ラベルコンテスト、メディアユニバーサルデザインの優秀作品を展示。東2-11ブースは『印刷産業の広がり』、『印刷産業の取り組み』、『印刷産業の情報発信』、『印刷産業のコンクール』の4つのゾーンを構成。印刷産業がどれほどの広がりを持っていて、環境をはじめとする、CSRや女性活躍などの活動にいかに取り組んできているかを紹介。このほか東6ホールにスクリーン・デジタルとジャグラーが独自ブースを展示した。出展に関しては、日本印刷産業機械工業会の協力・支援をいただいた。



(4) WPCF 世界印刷会議の参加

WPCF 世界印刷会議が上海にて開催され(2018年10月22～25日)日本のほか、米、欧(Intergraf)、中、韓、印、豪、香港の8国・地域が参加した。また23日にはChina Printing Summitが開催され、日印産連として発表を行うとともに、10月24日からのAll-in-PrintChina2018の視察を行った。帰国後、出張報告会を12月11日(火)に印刷会館2Fにて開催した。資料は日印産連ホームページに掲載。



(5) 2018年「9月印刷の月」記念式典の開催

1) 開催概要

日時：2018年9月12日(水) 午後3時～午後7時

場所：ホテルニューオータニ 本館「鶴の間」

参加者：約600名

講演会「SDGsへの対応～大激変の時代、21世紀型ビジネスモデルの構築に役立たせる～」

後藤 敏彦 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事

第1部 記念式典

- ・日印産連表彰(印刷功労賞・印刷振興賞・特別賞)
- ・第17回印刷産業環境優良工場表彰(経産省商務情報政策局長賞・日印産連会長賞・特別賞・奨励賞)

第2部 懇親会



(6) 主催4 コンクールの開催

1) 開催概要

	第70回 全国カレンダー展	第60回 全国カタログ展	第58回 ジャパンパッケージング コンペティション	第52回 造本装幀コンクール
主催	(一社) 日本印刷産業連合会 フジサンケイビジネスアイ	(一社) 日本印刷産業連合会 フジサンケイビジネスアイ	(一社) 日本印刷産業連合会	(一社) 日本書籍出版協会 (一社) 日本印刷産業連合会
後援	経済産業省 文部科学省 (独) 国立印刷局 日本商工会議所 日本製紙連合会 (社) 日本マーケティング協会 全国中小企業団体中央会 協賛：全国カレンダー出版協 同組合連合会	経済産業省 文部科学省 (独) 国立印刷局 日本商工会議所 日本製紙連合会 (社) 日本マーケティング協会 全国中小企業団体中央会	経済産業省 (公社) 日本パッケージデザイン協会 (公社) 日本包装技術協会 (公社) 日本マーケティング協会 (一社) 日本プロモーション・ マーケティング協会 日本百貨店協会 協賛：ジャパンパック(株)/平和紙業 (株)	文部科学省 経済産業省 東京都 (公社) 日本図書館協会 (公社) 読書推進運動協議会 (一社) 出版文化国際交流会 (一財) 出版文化産業振興団
会期・ 開場	2019年 1月21日(月)～25日(金) 東京：東京サンケイビル B1, B2 ブリックギャラリー 1月29日(火)～2月7日(木) 大阪：平和紙業センターボイス	2019年 1月21日(月)～25日(金) 東京：東京サンケイビル B1, B2 ブリックギャラリー 2月25日(火)～3月7日(木) 大阪：平和紙業センターボイス	2019年 4月15日(月)～17日(水) 東京：日本印刷会館2階 4月22日(月)～26日(金) 大阪：平和紙業センターボイス	2018年 10月26日(金)～28日(日) 神保町 東京堂ホール
審査	2018年12月4日(水)	2018年10月23日(火)	2019年2月1日(金)	2018年5月30日(水)
表彰式	2019年1月21日(月) 東京サンケイビル	同左	2019年4月16日(火) 東京一ツ橋・如水会館	2018年9月10日(月) 日比谷図書文化館
応募数	計 584 点	計 422 点	計 182 点	計 325 点



カレンダー・カタログ展示会 (東京サンケイビル・ブリックギャラリー)



PC 展示会 (日本印刷会館)



造本装幀コンクール展示会 (東京堂ホール)

2) 平成30年度主催コンクール/受賞作品数

	授賞名 (順不同)	カレンダー	カタログ	JPC	造本装幀
0	内閣総理大臣賞	1	-	-	-
1	経済産業大臣賞	3	2	2	1
2	文部科学大臣賞	3	2		1
3	経済産業省製造産業局長賞			2	
4	経済産業省商務情報政策局長賞	4	2	3	
5	東京都知事賞				1
6	国立印刷局理事長賞	3	2		
7	日本商工会議所会頭賞	3	2		
8	日本製紙連合会賞	3	2		
9	日本マーケティング協会賞	3	2	1	
10	全国中小企業団体中央会会長賞	3	2		
11	日本パッケージデザイン協会			1	
12	日本包装技術協会賞			1	
13	日本プロモーション・マーケティング協会賞			1	
14	日本百貨店協会賞			1	
15	日本図書館協会賞				1
16	出版文化国際交流賞				1
17	読書推進運動協議会賞				1
18	出版文化産業振興財団賞				1
19	審査員特別賞 (審査員奨励賞)	5(7)	0(4)		3
20	日本書籍出版協会理事長賞 (主催者)				6
21	日本印刷産業連合会会長賞 (主催者)	3	2	5	6
22	フジサンケイビジネスアイ賞 (主催者)	3	2		
23	部門賞	24(61)	12(36)	22	
24	奨励賞	(20)	(16)		
	受賞作品数	61	36	39	22
	応募作品数	584	422	182	325

10.4% 8.5% 21.4% 6.8%
前年 11.4% 8.6% 25.2% 6.7%

3) 応募数の推移 (10年間の応募作品数掲載)

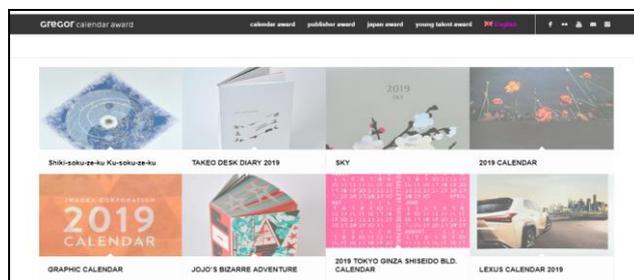
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
全国カレンダー展	725	718	756	770	714	658	625	604	586	584
全国カタログ展	335	415	469	423	388	379	374	402	373	422
JPC	193	166	164	156	151	176	166	160	163	182
造本装幀コンクール	344	384	309	315	366	334	349	332	328	325

4) 特記事項

- ・「第 70 回全国カレンダー展」でのチャリティーカレンダーの販売金 17.8 万円と日印産連からの寄付金 32.2 万円を合わせた 50 万円を、国内外の心臓病の子供を救う「明美ちゃん基金」（産経新聞社提唱）に寄付した。
- ・グレゴリー・カレンダーアワードは欧州最大のカレンダー展で、毎年「全国カレンダー展」の上位受賞作品がグレゴリー・カレンダーアワードに出品されている。今年は世界中から 700 点以上の作品応募がある中で、日本からの応募作品から金賞 2 点、銀賞 2 点、銅賞 3 点、特別賞 1 点、Photo Calendar Award 1 点を受賞した。
- ・2019 年 2 月 7～9 日にライブチヒ（ドイツ）で行われた『世界で最も美しい本コンクール 2019』審査会で、「造本装幀コンクール」において審査員奨励賞を受賞した「the first」が、荣誉賞に選出された。応募作品は 34 か国から 600 点以上を数え、その中から最優秀賞の「金の活字賞」1 点、金賞 1 点、銀賞 2 点、銅賞 5 点、荣誉賞 5 点の計 14 点が受賞した。
- ・印刷博物館 P&P ギャラリーで 2018 年 12 月 15 日（土）～2019 年 3 月 31 日（日）に『World Book Design 2017-18』が開催され、「世界で最も美しい本コンクール」の入選図書とともに、造本装幀コンクールの受賞作品のほか 6 カ国（ドイツ、オランダ、スイス、オーストリア、カナダ、中国）のコンクール入賞図書を加えたおよそ 200 点を展示された。
- ・“SHIBUYA BOOK DESIGN COLLECTION “が 2019 年 1 月 14 日（月祝）～2 月 10 日（日）に SHIBUYA TSUTAYA で開催され、造本装幀コンクール受賞作品 15 点が展示・販売された。
- ・印刷博物館 P&P ギャラリーで 2018 年 10 月 10 日（水）～12 月 9 日（日）の日程で『現代日本のパッケージ 2018』が開催され、第 57 回ジャパンパッケージングコンペティションの受賞作品のほか、「JPDA パッケージデザインインデックス 2018」と「2018 日本パッケージングコンテスト」の受賞作品も展示された。



「明美ちゃん基金」への寄付



グレゴリー・カレンダーアワード受賞作品



“SHIBUYA BOOK DESIGN COLLECTION“



現代日本のパッケージ 2018

(7) JFPI 社会責任報告書 2018/2019

グランドデザインの考えに基づき、日印産連の社会責任報告書を昨年に続き作成し 10 団体、協賛企業などに配布した。またこの PDF 版は日印産連ホームページに掲載したほか、国連グローバル・コンパクトへの活動報告として、同ウェブサイトにも掲示された。

(8) 技能五輪国際大会

2019年8月にロシア連邦・カザンで開催される第45回技能五輪国際大会「印刷職種」(オフセット印刷)に出場する日本代表選手選考会が開催され、(株)トッパンコミュニケーションプロダクツの湯地龍也さんが選出された。

(9) 第2回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト

応募総数707作品(前回760作品)の中から一般の部は小山薫堂最優秀賞1作品、小山薫堂優秀賞2作品、優秀賞3作品、佳作5作品、小学生の部は小山薫堂最優秀賞1作品、小山薫堂優秀賞4作品、優秀賞3作品、佳作4作品の合計23作品を決定した。表彰式は小山薫堂 GP PR 大使出席のもと2018年11月7日(水)に経団連会館・経団連ホールにて開催された。



(10)

スマホ対応および「ぷりんとぴあ」の見直しが終了。「ぷりんとぴあ」に「“明治150年”記念展示 『日本の印刷の歴史』—江戸から明治期における日本の印刷技術—」のコンテンツを追加。



(11)
1)

-2,550部作成して配布。 発行日：4月25日

※アンソロジー印刷会議 FAPGA 2018年7月 東京にて開催

○第164号(2018年7月号) 44頁 発行日：7月17日

※第33回定時総会 役員改選、金子眞吾氏新会長に就任

○第165号(2018年10月号) 44頁 発行日：10月25日

※2018年9月印刷の月

※IGAS2018

○第166号(2019年1月号) 48頁 発行日：1月25日

※年頭所感2019年

※2019年新年交歓会

2) 協賛事業

昨年同様、教育研究会(東京都立工芸高校学校 グラフィックアート科が中心)から協力の依頼を受け、「学生グラフィックコンペ」に日印産連賞として図書券2万円を寄贈。

3) マスコミ懇談会／記者会見の開催

□マスコミ懇談会

- ① 2018年 9月6日 日本印刷産業連合会会議室
- ② 2018年 12月18日 日本印刷産業連合会会議室

6 SDGs 検討プロジェクト

【1】概要

日印産連は2015年に、印刷産業が社会の中で果たすべき役割を整理し、さらに高い社会的責任を果たしていくことを目指す「グランドデザイン」を取りまとめた。その実現のため指針となるミッション・ステートメントを制定し、また国際的な社会的責任のフレームワークである「国連グローバル・コンパクト」（以下GC）への支持を表明した。このGCが提唱する4分野10原則は「グランドデザイン」で示した印刷産業が目指すべき姿と合致している。

更に国連が掲げる「SDGs（持続可能な開発目標）」は、印刷産業が取り組むべき社会的課題が数多く含まれている。日印産連は「グランドデザイン」をベースに、①地球環境への配慮、②労働安全衛生の確保、③ダイバーシティ経営（女性活躍推進）、④情報セキュリティへの対応、⑤地方創生への貢献、⑥知的財産の保護と活用、の6つのテーマを印刷産業が取り組むべきSDGsの重要課題として常設委員会と連携して推進していくこととした。

【2】具体的活動

- ① SDGs 検討プロジェクトの最初の活動として日印産連・10団体への周知および、認知を図るため「9月印刷の月」記念式典にて、サステナビリティ日本フォーラム代表理事 後藤 敏彦氏による「SDGs への対応～大激変の時代、21世紀型ビジネスモデルの構築に役立たせる～」のテーマで講演を開催した。
- ② 日本におけるローカルネットワークとして発足したグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの「SDGs分科会」に会員登録を行い、勉強会や意見交換等に参加した。
- ③ 内閣府が主導する「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に日本印刷産業連合会として正式に参加をした。全国各地の会員会社の地方創生事業を支援していく。
- ④ 外務省の「第2回ジャパンSDGsアワード」に応募した。結果は残念ながら受賞には及ばなかったが、会員会社である（株）大川印刷さんが印刷業界としては初めてのパートナーシップ賞を受賞した。
- ⑤ 経産省が主導する「CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）」に一般会員として登録し、その中の「普及促進部会」に所属し、プラスチックを取り扱うサプライチェーンの業界・企業との枠を超えた取り組みを進める。
- ⑥ 価値創出委員会と連携し、「じゃばにうむ2019印刷産業の地方創生事業事例発表会」を開催し、その中で内閣府 地方創生推進事務局 参事官 遠藤 健太郎氏による基調講演を行った。

7 顕彰委員会

【1】概要

本委員会は、「日印産連表彰選考委員会」「印刷産業環境優良工場選考委員会」「G P環境大賞等選考委員会」の小委員会を招集し、選考を委嘱する委員会である。

委員会名	開催回数	実施内容
顕彰委員会 (ステアリング・コミッティ)	5回	*日印産連表彰 *印刷産業環境優良工場表彰 *G P環境大賞等 (G P環境大賞・G P マーク普及大賞・G P資機材環境大賞)
① 日印産連表彰選考委員会	1回	
② 印刷産業環境優良工場表彰選考委員会	1回	
③ 印刷産業環境優良工場表彰審査委員会	7回	
④ G P環境大賞等選考委員会	1回	

【2】委員名簿

顕彰委員会(計10名)

(敬称略、◎は委員長)

連合会役職	所属団体		氏名	会社名
	団体名	役職		
◎副会長	印刷工業会	副会長	浅野 健	(株)金羊社
副会長	全印工連	会長	白田 真人	(株)アドピア
副会長	フォーム工連	会長	櫻井 醜	トップン・フォームズ(株)
常任理事	ジャグラー	会長	中村 耀	NS印刷製本(株)
常任理事	全日本製本	会長	田中 真文	(株)田中紙工
常任理事	G C J	会長	田村 壽孝	(株)東京ニュース
常任理事	全日本シール	会長	田中 祐	山王テクノアーツ(株)
常任理事	全国グラビア	理事長	田口 薫	大日本パッケージ(株)
常任理事	スクリーン・デジタル	会長	吉見 正彦	マルワ工業(株)
常任理事	全日本光沢	会長	鶴田 和也	宏和樹脂工業(株)

【3】主な実施内容

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| (1) 日印産連表彰選考委員会 | 開催日：8/1 |
| (2) 印刷産業環境優良工場表彰選考委員会 | 開催日：7/18 |
| (3) 印刷産業環境優良工場表彰審査委員会 | 開催日：11/13 12/19 2019,1/30 2/20 |
| (4) G P環境大賞等選考委員会 | 開催日：7/31 |

本年度は新たに、G P資機材環境大賞の「表彰規程(案)・同選考委員会規程(案)」が原案どおりに承認された。



印刷産業環境優良工場表彰式



日印産連表彰式